



豊成小学校に「フェアキャスト」の導入を働きかけたのは、PTA会長だった。「従来の電話による連絡網の場合は、保護者が電話に出られない場合には連絡を伝えられないという問題点がありました。しかし、『フェアキャスト』のようにメールやファックスなど複数メディアに対応していれば、保護者が電話に出られない場合にも連絡を伝えることが可能になります。メールやファックスの着信を確認して、手が空いたときに確認することもできますから。

実際に『フェアキャスト』を導入してみた意外だったのは、連絡先として携帯の電話番号を登録する人が多かったことですね。普段から携帯電話のメールを使い慣れている保護者は、忙しい時はメールの着信だと内容の確認を後回しにしてしまう。ですが、携帯電話に電話がかかってくると、緊急性があると捉えて電話に出るようです。」

携帯電話のメールが広く浸透した今でも、緊急の連絡には音声通話が有効だと分かる。

## 学校やPTA同士の「クチコミ」で広がっていく

豊島区では「フェアキャスト」を利用してい



情報交換会

る学校、そして導入を検討する学校のPTA代表が集まり、1学期に1度「情報交換会」を行っている。「情報交換会」にはNTTデータの担当者も毎回出席している。2008年2月には高松小学校で行われ、すでに導入している小学校（以下、導入校）が5校、導入を検討している学校（以下、検討校）の5校が参加した。導入校同士が問題点を議論し、運用事例を話し合う、また検討校が導入校に質問をするなど、活発な意見交換が行われた。

具体的には、今年度（2007年度）から導入した学校から「新年度になるときのシステムの更新の方法や状況を教えてほしい」という機能面での質問や、サービス利用料をどこから捻出するのか、という費用面への質問が投げかけられた。費用に関しては、

「PTA費の中から捻出する」、「PTA費とは別に保護者から徴収する」などいくつかのケースが報告され、中には「バザーなどの行事での利益を充てる」というユニークなケースもあった。

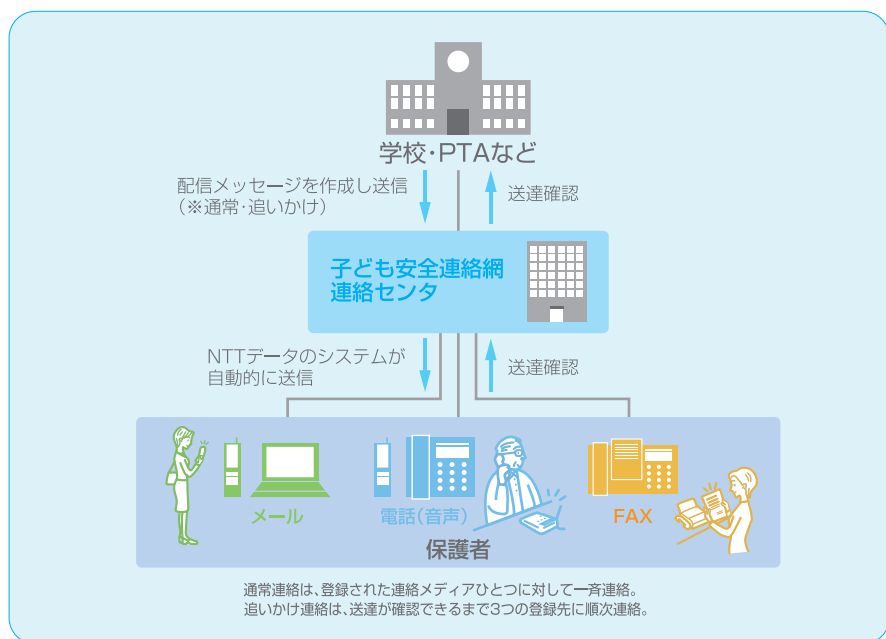
また、豊島区の公立小学校には外国籍の保護者も多く、言語の問題も取り上げられた。各国語対応は実現が難しいが、「聞き取りならできる保護者は音声で受けたり、メールやファックスで受け取った文章を誰かに訳してもらうなど、音声、メール、ファックスの中から連絡手段を保護者側で選べるのは大きなメリット」との意見も寄せられた。また、実際に利用された例として「不審者情報」、「台風による野外行事の延期」、「林間学校の帰りのバスの到着時間の変更」などが報告された。

現在、「フェアキャスト」の導入を検討している学校の関係者に「情報交換会」の感想を聞いてみた。

「導入されている学校がどこも継続すると話されるので、やはり優れたシステムなのだと実感しました。現在、保護者への連絡手段の中心は紙で印刷した配布物です。これだと子どもが配布物をランドセルに入れっぱなしにして、保護者に行き渡らないこともあります。その点、『フェアキャスト』なら、保護者に直接連絡が届くため確実に安心ですね。ただ、頻繁に使用しない連絡網システムを新しくするために、周囲を説得するためには、利便性よりも安全対策という付加価値をアピールしていく必要があると考えます」と話した。

現在、「フェアキャスト」導入を決めた学校の半数が「クチコミ」がきっかけだ。公立校の場合は教職員の異動がある。前任校で「フェアキャスト」を利用していた教職員が、異動先で導入を薦めるケースもある。また、PTA役員同士、教職員同士の情報交換で広がっていくこともある。

豊成小学校の校長はいう。「はじめて話を伺ったときは費用の面や個人情報保護の面で不安もありました。しかし実際に導入してみると、利便性が高い上に、個人情報の管理面でも安心です。以前の電話連絡網には戻れない便利さがあります。」



サービスの流れ

## 株式会社NTTデータ

FairCast®—子ども安全連絡網 事務局

☎0120-059908 受付時間 平日10:00~18:00

〒135-6033 東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル

FAX:03-5546-9392

<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)